



今回は2年生課題研究のまとめです。

◇ 令和元年度 SGH活動を通して学んだこと

2年生は「SDGsの実現に向けて」というテーマで1年間課題研究に取り組んできました。答えのない問いに対してグループで活動していく中でさまざまな困難や苦労に直面しましたが、それを乗り越え多くのことを学ぶことができました。以下は生徒の振り返りとルーブリックによる評価のまとめです。

●活動をする中で、何が一番大変でしたか？

- ・世界の問題を調べ比較したり、フィールドワークで学んだことをレポートにまとめたりすること
- ・リアルタイムで起こっていることを調べるのが大変だった
- ・生徒と先生にとってアンケート結果や大学の教授の話をもとに、考えまとめること
- ・身近な例とテーマを結びつけること
- ・実践的なフィールドワーク
- ・班員と意見を出し合い、まとめていくこと
- ・自分たちが直接手助けして改善することは難しく、ではどうしたらいいのか見つけ出すことが大変だった。
- ・自分の考えや提案を考えること
- ・実際に自分たちのテーマに関するところで、活動している人が身近にいなかったこと
- ・ほしい情報が思ったように集まらなかったこと
- ・提案内容を考えること

●その困難をどのように乗り越えましたか？

- ・仲間と役割分担をし、負担を軽減した。
- ・インターネットを活用し、最新の情報を手に入れた。
- ・グループ内で意見を出し合った
- ・実践的な研究をされている方のお話を直接聞きに行った。
- ・実際に活動を行っているところに行って、正しい知識とイメージを得るようにした
- ・グループの人の話を聞いて、自分の考えを持つようにした
- ・学びが多かったなので、苦ではなくなっていた
- ・先輩方が作成したレポートを参考にした
- ・話し合いのメモをつくり、あとから見直すことができるヒントづくりをした
- ・仲間と意見を出し合い、放課後などの時間も活用して、時間をかけて試行錯誤した
- ・ひたすら納得がいく案が出るまで話し合った。

●SGH 活動はあなたにとってどのような意味がありましたか？

- ・講演会などを通して視野が広がった
- ・自分の将来の仕事についての方向性が少し定まった
- ・自分が将来やってみたいと思ったこと、人の生き方・考え方などたくさん知れた
- ・普段学校で生活しているだけでは学べないようなことを通して、多くの人の視点や生き方を知れた
- ・普通に生活していたら考えもしないことを考え、自分や周りの考え方が変わった
- ・今まで関心がなかった日本の現状を理解することができる時間だった
- ・自分を取り巻く社会について様々な視点から考えることができ、将来だけでなく日常的な視野も広がった
- ・フィールドワークやボランティアを通して、自分の中でも偏見やイメージに頼った考えがあったと気付けた
- ・自分の弱さを認識できた
- ・1年生のときにはできなかったことができるようになった気がする
- ・考えや情報をまとめる力がついたし、そこから自分たちの意見を出すことができた
- ・地域交流の実態を学ぶことができ、見識が深まった。また英語の力も伸ばせた
- ・フィールドワークを継続して行うことで、何かを運営することの難しさを知った
- ・授業の中ではできない、多方面からの考え方を学べた
- ・外国人児童に勉強を教えることで、「教育」に触れることができた。自分が教える側になることでいろいろ感じられた
- ・割り振られた仕事についてどこまで深く掘れるか、何が可能か、考え活動ができた
- ・自分の先入観や考えに固執しないこと、社会にはさまざまな価値観を持った人がいることを知れた

●あなたにとっての課題はなんですか？

- ・進路を含め、これからの自分がどのように生きていくかを考えること
- ・周りの模範になる行動をすること
- ・社会問題にもっと興味を持つこと
- ・もっと広い世界を知ること
- ・物事に興味を持ち、積極的に取り組むこと
- ・自分の意見をわかりやすく相手に伝えること
- ・将来、自分のやりたいことを明確にすること
- ・強い芯をもって生きていくこと
- ・集中力・忍耐力をつけること
- ・自分の生き方、考え方が人に誇れるものであるかどうか
- ・将来自分が「やりたいこと」ができるように、「やらなければならないこと」と今自分が「やりたいこと」のいいバランスを見つけること
- ・計画性を持って行動すること
- ・常に第三者の目線で物事を考え、できるだけ公平な目線で判断すること

- ・将来について具体性を持たせること
- ・自分で課題・問題を見つけて解決する力をつけること
- ・ひとつの事柄を様々な方向から見つめること
- ・SGHの活動で得た学びを将来につなげていくこと
- ・問題解決力をつけること。当たり前で解決されていないことに目をつけること

●ループリックによる評価

1年間の活動の評価として、生徒一人ひとりが課題の設定、提案内容、ポスターの見やすさ、データの活用、発表時の態度の5項目に対して、4段階評価を行いました。

結果を見ると、課題の設定や提案内容については高い満足度があることがわかります。これは昨年度の課題研究を礎とし、今年度も1年間課題に向けて真摯に取り組んできた結果だと考えられます。またプレゼンやポスターの見やすさやデータの活用に関しては昨年度より満足度が上がっているものの、まだまだ改善の余地があります。根拠のある提案を、より分かりやすく相手に伝えるにはどうしたらよいか、考えていく必要があると感じます。発表の態度が特に満足度が低くなっている点については、プレゼンテーションに慣れていないことも要因の一つとして考えられるため、各教科の授業など機会をとらえて指導していきたいと思います。

使用したループリック↓

R1年度『SGH課題研究』の探究活動ループリック(英語プレゼンテーション)						
段階	大項目	小項目	満足のいく状態(4)	やや満足のいく状態(3)	やや不十分な状態(2)	不十分な状態(1)
プレゼンテーション	日本語プレゼンおよび英語ポスターの内容	課題の設定	主張と根拠をつなぐ理由が論理的である。	主張に対する根拠が明確である。	主張に対する根拠が明確でない。	主張のみで根拠がない。
		提案内容	テーマに沿った提案内容となっており、アイデアの随所に工夫がある。	テーマに沿った提案内容であり、一部オリジナルの発想が盛り込まれている。	テーマに沿った提案からはずれている部分がある。	提案内容がテーマに沿っていない。
	英語のポスター	見やすさ	箇条書きにまとめ、文字の配色の工夫、写真など視覚に訴える工夫が随所に見られる。	箇条書きにまとめ、文字は大きさや配色に工夫が見られる。	箇条書きにまとめてあり、分かりやすい。	情報量が多すぎて、分かりにくい。
		データの活用	グラフなどの調査に関わるデータが盛り込まれ、主張の根拠となっている。	グラフなどのデータに関する「タイトル・出典・数値」について説明がある。	グラフなどデータを提示しているが、説明がない。	グラフなどのデータの活用がない。
	日本語または、英語プレゼンの発話力	声・態度	原稿を見ず、聞き手とアイコンタクトをとりながら、適宜ジェスチャーなどを使い、聴衆の理解を確認しながら話している。	原稿を見ず、ジェスチャーを取りまぜながら、積極的に話している。	原稿を見ずに説明しているが、棒読みである。	原稿を読む段階である。

集計結果↓

